

二月のご案内

〒567-0012 茨木市東太田二丁目九-三二
TEL 072-533-5555 FAX 072-533-5575
本願寺派 西福寺

白梅の香りに誘われて、小鳥が群れをなしてやってきます。皆様には如何お過ごしでしょうか。平成二十九年二月のご案内を申し上げます。

撰津十二日講御消息披露法要

日時 二月十二日(日) 昼一時〜三時

※いつもと開始時間が異なります。ご注意ください。

講師 本願寺名誉侍真・富田本照寺住職

日野真正師

■平成十七年二月以来、十二年ぶりの法要です。天下統一の野望をいなく織田信長と十一年にわたって死闘を繰り広げ、浄土真宗の法灯を守り抜いた石山合戦を契機に始まったとは思えないほど、厳かで奥ゆかしい法要です。

■お誘いあわせの上、ごぞつてお参り下さい。

●帰敬式(きききょうしき)を受式しましょう。

帰敬式とは、阿弥陀如来・親鸞聖人の御前で浄土真宗の門徒としての自覚をあらたにし、お念仏申す日暮を送ることを誓う、私たちにとって最も大切な儀式です。この帰敬式を受式され、仏弟子となった方に本願寺住職(ご門主さま)より法名が授与されます。帰敬式を受式し、共にお念仏を喜ぶ人生を歩みましょう。

1. 執行日 1月1日・1月16日の晨朝後、1月8日・12月20日の終日を除く毎日2回
 2. 執行時刻 午前の部：晨朝後引き続き／午後の部：午後1時30分
 3. 受式申込 午前の部は晨朝前、午後の部は執行時刻の1時間前までに参拝教化部まで
 4. 冥加金 成人：10000円／未成年：5000円
- ※詳しくは住職までお問い合わせください。

撰津十二日講御消息披露法要式次第

- 一、 喚鐘
- 一、 開式の辞
- 一、 挨拶 総代
- 一、 開扉
- 一、 開座の言葉 講長
- 一、 入堂、着座 御導師組長 住職
- 一、 勤行「仏説阿弥陀經」
- 一、 勤行終了後 退出
- 一、 (休憩 十分間)
- 一、 庭儀 御消息入堂
- 一、 達書伝達
- 一、 御消息拝読披露 三巻
- 一、 拝読終了後 一同合掌礼拝
- 一、 恩徳讃唱和
- 一、 庭儀 御消息退出
- 一、 挨拶 住職
- 一、 閉座の言葉 中下組理事
- 一、 挨拶 総代
- 一、 閉扉
- 一、 閉式の辞



伝燈奉告法要団体参拝平成29年4月28日

本願寺と撰津十二日講

本願寺は、親鸞聖人が弘長二(一二六三)年にご往生され、京都東山大谷の地に、ご遺骨を納め、廟堂を建てたことにはじまります。

第八代蓮如上人の時代、寛正六(一四六五)年に大谷本願寺は、比叡山衆徒によって破却されます。蓮如上人は、越前吉崎、河内出口などを転々とされた後、京都山科に本願寺を再建されました。しかし、山科本願寺も天文元(一五三二)年、細川晴元らによって焼き払われ、大坂石山(大阪城の辺り)に寺基を移し、寺内町を整備して発展の一途をたどりしました。

その後、第十一代顕如上人の時代、元亀元(一五七〇)年に天下統一を目指す織田信長と本願寺との間に石山合戦が起こりました。この本願寺の一大事に近郷近在の浄土真宗の僧侶・門徒は大坂石山に馳せ参じ、信長の軍勢に対して鎌や竹槍を武器に一步も引かず、身命をなげうって、十一年もの間、戦い抜きました。

結局、顕如上人は天正八(一五八〇)年、信長と和議を結び、大坂石山を退去して紀伊鷺森に移られることとなりました。

この石山合戦における島上、島下両郡の門徒達に対して、天正十(一五八二)年九月十日、顕如上人より御消息が下付され、第十代証如上のご命日の前日(十二日)に法座を開いたのが撰津十二日講の名称の由来です。

以降、毎月十二日に法座を開き、特に本願寺より御使僧をお迎えし、ご歴代の宗主から下付された御消息を親しく拝読する御消息披露法要が、実に四百三十年以上もの長きにわたり連続されています。

いしかわきんや 石川欣也先生の 法話のダイヤル0743-53-4488